

財務常任委員会協議会

- 1 日 時 令和元年12月16日(月)
午前11時15分～午前11時40分
- 2 場 所 第2・第3委員会室
- 3 出席委員 (委員長) 鬼頭博和 (副委員長) 宮川隆
(委員) 片岡健一郎、谷平敬子、黒川武、大野慎治、水野忠三、
須藤智子、井上真砂美、伊藤隆信、関戸郁文、堀 巖、
木村冬樹、榎谷規子
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席者 梅村 均 議長
- 6 事務局出席者 議会事務局長 丹羽至、同統括主査 寺澤顕
- 7 委員長あいさつ
- 8 協議事項

(1) 新年度予算に向けた提言について

【選挙執行費】

水野委員：「投票率そのものを上昇させる要因とはなっていない」のではなく、
どちらとも言えないと思う。

榎谷委員：事実として、投票率そのものを上昇させてはいない、と記載してはど
うか。今のものと変わらないか。

大野委員：(期日前) 投票所がなかったら、さらなる下落を招いているというこ
とを水野委員は言いたいのでは。さらなる下落を食い止めている可能性も秘
めているわけで、書かなくてもいいのかなとは思う。

宮川副委員長：後続の文章にもっと重点を置くために括弧書きの部分は消した
方がいいのでは、と作成時に私から提案したが、皆さんで文章を考えてもらい
たいと思う。

堀委員：水野委員に賛成。事実だけを書くに留める、つまり削る。それから、「期
日前投票所の投票率」という書き方だが、複数の期日前投票所を設けている市
町村を分析したわけではなく、全体の期日前投票率が上昇しているという意
味なので、「期日前投票の投票率」が正しいと考える。

水野委員：1文に逆説表現が2回になっているので、前段と後段を入れ替えては
どうか。

木村委員：括弧は取り、「要因とは言えない。しかし～」ではどうか。

大野委員：提案するとき、要因とは言えない、と否定してしまったら、要因で
ないのならやりませんと言われてしまう。せつかく市も前向きなので、書かな
い方がいい。

木村委員：水野委員の言ったようで良い。「全体の投票率は概ね減少しているが、期日前投票の投票率は増加しているため、投票に対する利便性向上や周知啓発のためには大変有効である。」

鬼頭委員長：並べ替えて、括弧内と後ろの、しかし、は削除する。

梅村議長：稲沢市の事例を調査した結果だったか。そこは残さないといけないのではないか。

大野委員：稲沢市の事例は、シティプロモーションの一環でもある。

堀委員：議長の言うのは、事実を書くべきという意味と思うが、要因とはなっていない、も事実とは言えない。それから、提言②の文末、「すべきである」は「すべきである」に統一を。

梶谷委員：課題の、「ホット」情報メールは、「ほっと」が正しい。

黒川委員：市役所は固定で、もう一つは移動式が良いと思っている。技術的な問題はありますが、提言を出すときに、こういう考え方もあると伝えてほしい。

【桜管理等事業】

黒川委員：「市政」50周年ではなく、「市制」である。

木村委員：「すべきである」を「すべきである」に統一する。

【その他】

梅村議長：経過に、担当課とのヒアリングも入れてはどうか。

鬼頭委員長：日付がいつだったか確認して追記する。